

「島キャン」で魅力体験

インターン 若者の発信力期待も



東京都の株式会社ハシスカイソリューションズが、島おこしをテーマにした大学のインターンシップ

事業「島キャン」が始まっている。今回は2月から3月にかけて、奄美群島内5島で約50人が就業体験を予定。働きながら島の魅力を体験してもらい、若者の発信力で地元のPRにつなげることも期待が寄せられている。

島おこしをテーマに同社が昨年初めて開催した夏のしまキャンでは8月～9月に奄美群島のほか、北海道の礼文島、島根県の隠岐諸島の8離島、計40事業所、約170人が参加。今回はその第2弾で奄美大島、沖永良部島、与論島、徳之島、

喜界島内の全22社が受け入れを予定している。同市住用町の黒潮の森マングローブパークには2月中旬ごろから、埼玉大学大学院2年の藤泰一さん(24)と、東京学芸大学2年の高橋周作さん(19)が就業。同施設を訪れた観光客へのガイド活動を行っている。

午前11時半開始の部には来園者5人が参加。2人はカヌーの操縦に慣れない人にコー

ス取りをアドバイスしながら進め、マングローブに限らず島内の様々な情報を提供するなどガイドに努めた。藤さんは「グローバルの時代と言われることが、より日本を知ること大切だと感じていた。お客さまに合わせた言葉、柔軟なガイドの必要性を感じた」、高橋さんは「指導していただいた先輩からプロ意識を持つ重要性を学んだ。より知識を広げ、会話の幅を持たせるこ

とを心がけた」と就業体験の感想を語った。島外から友人に会いに来た伊藤諭美さん(27)と林秀一さん(25)は「説明もつまかったし、写真をとってくれたりサービスも良かった」と満足した様子。同施設でインストラクターを務める川内正貴さん(37)は「2人も社交的な性格で、勉強心。いつでもガイドを任せられるような仕事ぶりを見せている。これからも奄美を

マングローブに限らず、様々な情報で観光客たちのガイドに努めた

ぜひ周りに勧めてもらえれば」と語った。